

あれはどげん なつとりますと？



定例会で議員が出した
一般質問は、まちづくりに
どう生かされているの
でしょうか。
その後を追います。

「宇美町の観光資源を生かしたまちづくり」



宇美町の歴史と文化を学ぶ

- 平成27年3月、議会に歴史・文化調査研究特別委員会を設置。
- 平成27年度、大分県宇佐市で開催された「全国門前町サミット」に参加。



観光に関する町広報と案内板の充実

- 宇美町観光情報サイトを刷新。
- 観光案内板にQRコードを表示し、宇美町登山道マップや観光情報を配信。

平成27年度福岡県エネルギー利用モデル構築促進事業（全額県補助金239万円）

一本松公園内の水域を利用する小水力発電の導入可能性調査を実施。
結果は、費用対効果の上で断念。



一本松公園トイレの改修要望

- トイレ改修等の環境整備を含め、中・長期的な計画を検討する。



宇美町の観光資源を発信

- サッカーJリーグ、アビスパ福岡の「宇美町応援デー」で宇美町をアピールする。
- 宇美町山の会の協力で、「四季折々の魅力発見！宇美町三郡山登山」を企画。



南里 正秀 議員

「共生社会」の形成に向けた取組は

答 インクルーシブ教育の充実を図る

問 特別支援学校や特別支援学級など就学先を決定する手順は。

答 学校教育課長 障がい等により、通常学級における指導だけではその能力を発揮することが困難な子どもについては、保育園、幼稚園、こども療育センター、小中学校、有識者、教育委員会職員等で構成された教育支援委員会で調査・審議を行い、保護者と面談を繰り返し、同意を得たうえで就学先を決定している。

問 小中学校の特別支援学級の現状は。

答 課長 知的障害、情緒障害合わせて、小学校14学級68人、中学校7学級30人が在籍。全児童生徒数の約3%を占め、年々増加傾向。

問 特別支援教育に携わる教職員の配置状況は。

答 課長 正規職員、常勤講師合わせて小学校14名、中学校7名のほか、教職経験者などの特別教育支援員10名を配置。

問 教職員への研修等による知識・技能の習得は。

答 課長 すべての教職員に対し、コーディネーターによる指導を実施。

問 こども療育センター「すくすく」や幼稚園・保育園、小中学校との連携は図られているのか。

答 課長 各施設に、子どもの生活状況等のわかる資料を提供してもらい、就学指導後も常に情報を共有できる体制を敷いている。

問 「共生社会」を形成するために、障がいのある人とない人が共に学び、障がいのある人が教育制度一般から排除されず、「合理的配慮」が提供される「インクルーシブ教育システム」構築が必要。本町の今後の課題と解決策は。

答 教育長 障がいのある児童生徒が授業内容をよく理解して、学習活動に対する達成感、充実感を持ち、ひいては生きる力を育むことが最も重要。

同時に、将来的な共生社会の実現に向けて、障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が、できるだけ同じ場で、共に学ぶことを目指すことがとても大切。

インクルーシブ教育の充実を図り、すべての子どもたちによりよい教育的効果をもたらされるよう努力したい。



「すくすく」での集団療育